

平成28年5月13日

各 位

会社名 三菱化工機株式会社
代表者名 取締役社長 高木 紀一
(コード番号 6331、東証第一部)
問合せ先 企画部長 齋藤 雅彦
(TEL. 044-333-5346)

中期経営計画（2016年度～2018年度）に関するお知らせ

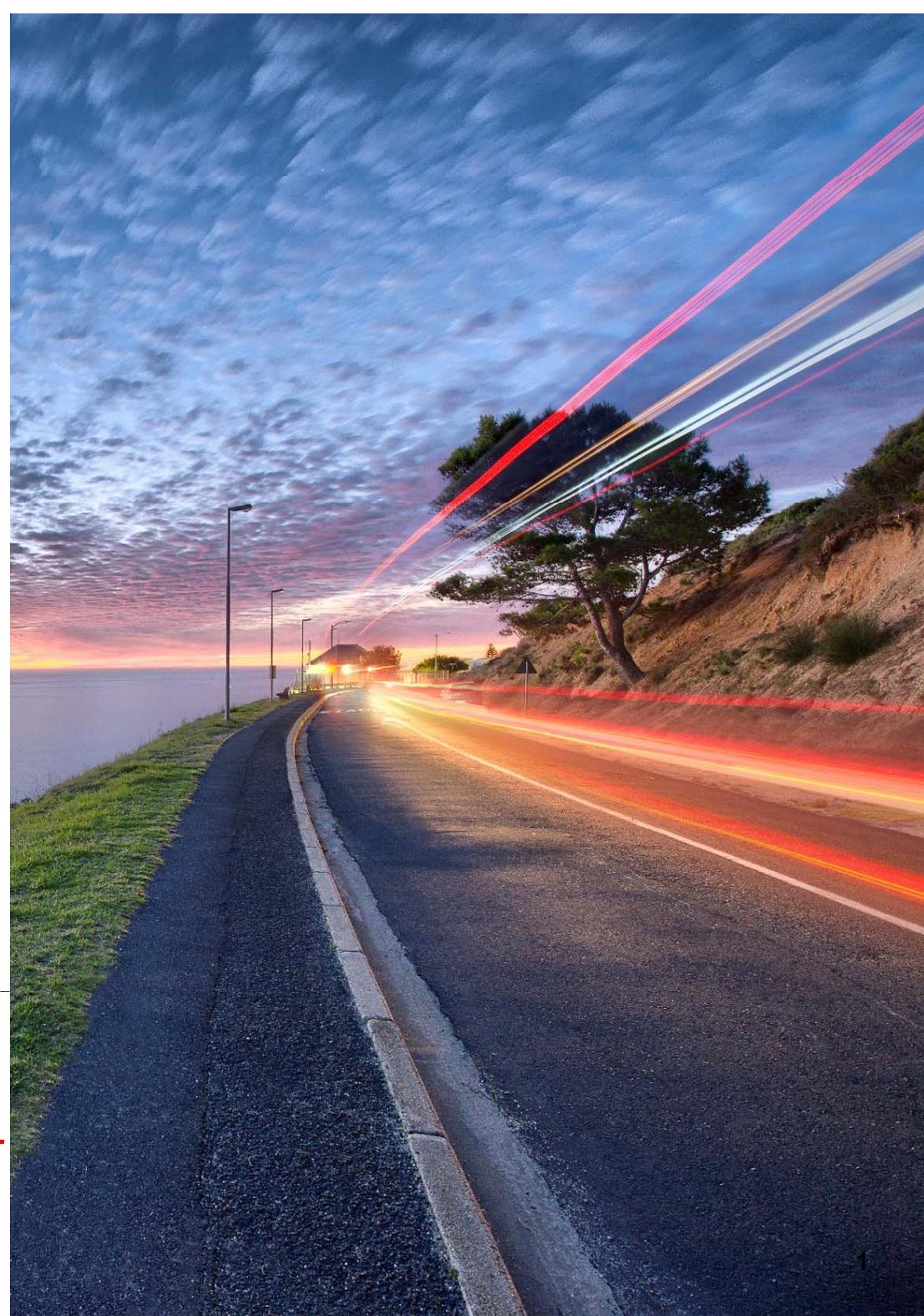
当社は、本日開催の取締役会において、中期経営計画（2016年度～2018年度）について決議いたしましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

以 上

中期経営計画 2016年度～2018年度

『挑戦と躍進』

“ABC for the Future”



社長メッセージ

現在、私たちの暮らす社会は、環境破壊、エネルギー危機、人口問題など世界的規模での様々な課題に直面しており、私ども三菱化工機は、企業としてこれら課題解決への絶え間ない挑戦により社会へ貢献することが求められております。

この様な時代において、当社は、これまで培ってきた「固体・液体・気体の分離」のコア技術、経験、ノウハウを駆使し、新製品・新技術の開発と改良により、プラントエンジニアリング、環境保護、化学工業機械などの分野で、時代のニーズにお応えしてまいりました。

今後も、常に既存製品、技術にとらわれない新しい事業分野に積極的にチャレンジし、お客様のご要望にお応えできる製品・技術・サービスの提供を目指していかなければなりません。

特に、環境にやさしい水素、再生可能エネルギーなどのクリーンエネルギーの供給やCO₂削減、除去など環境保護のための新しいクリーン化技術の開発は、次世代のために今、まさに取り組むべき重要課題のひとつと捉えております。

当社は創業以来、製造業として築いてきた「モノづくりに根ざした確かな技術と徹底した品質管理」、また国内外での多くの建設工事の実績により蓄積された「エンジニアリング技術とノウハウ」を基盤として、これら必要とされる新しい技術の開発、新規事業分野へ果敢に挑戦し更なる躍進を図る決意です。

今般、中期経営計画(2016年度～2018年度)を策定致しました。

『挑戦と躍進』を掲げ“ABC(= Action of Breakthrough & Challenge for the Future)”活動として全社的に展開し、企業価値の向上を図り、全てのステークホルダーの皆様に安心される企業を目指し、本計画の達成に全力で取り組んでまいります。



三菱化工機株式会社
取締役社長 高木 紀一

中期経営計画 目次

I. 三菱化工機のご紹介

II. 足許の業績の振り返り

III. 企業ビジョン (10年後のあるべき姿)

IV. 中期経営計画概要 (2016年度～2018年度)

I-1. 三菱化工機のご紹介

エンジニアリング事業

プラント事業



環境事業



単体機械事業



当社は、プラント・環境設備の建設・エンジニアリングと、各種単体機械の製作を軸に事業を展開しております。製造機能を持ったエンジニアリング企業として、都市ガス、石油、水素、電力、化学、医薬、食品、半導体、バイオ、大気汚染防止、水処理、新エネルギーなど様々な分野で求められる機械・設備を製作・建設し、産業社会の発展を力強く後押ししております。

I-2. 三菱化工機のご紹介 — エンジニアリング事業

プラント事業

精製・分離技術を核に、高品質・低価格・短期間でお客様のニーズにお応えするプラントをご提供しております。都市ガス、石油、水素、硫黄回収等のエネルギー関連と医薬、食品関連及び一般化学工業用装置・設備の建設を軸に国内及び海外へ事業を展開しております。

主要製品:

都市ガス関連、石油精製、石油化学、
電力、化学、医薬、食品他



I-3. 三菱化工機のご紹介 — エンジニアリング事業



環境事業

1950年代後半より環境事業の先駆けとなる水質汚濁の防止事業に取り組んでまいりました。近年では下水、産業排水、産業廃棄物の各処理設備の建設を軸に事業を展開しております。

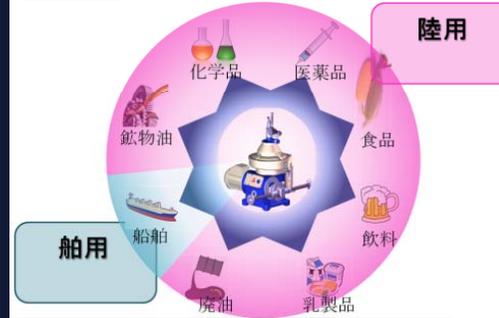
主要製品:

下水排水、集落排水、脱臭、
工場等の排水処理、排煙脱硫、汚泥処理、
バイオガス他

I-4. 三菱化工機のご紹介 — 単体機械事業



ディスク型遠心分離機の用途



単体機械事業

三菱油清浄機を中心に、高機能各種単体機器(遠心分離機、ろ過機、除塵装置、攪拌機等)の製作を軸に事業を展開しております。これからも、お客様のご要望にお応えする各種産業機械をご提供してまいります。

主要製品:

遠心分離機、ろ過機、攪拌機、除塵装置、船舶環境規制対応機器、他単体機器



I-5. 三菱化工機のご紹介 — 2015年度の主なプロジェクト 等



B-DASHプロジェクト
(水素ステーション)

- 2015年 4月 下水バイオガス原料による「水素創エネ技術」
の実証運転開始〔国土交通省下水道革新的技術
実証事業 (B-DASHプロジェクト)・福岡市〕
- 2015年 5月 マレーシア機能性化学品プラントプロジェクト受注
- 2015年 6月 (株) J-オイルミルズ／倉敷工場建設
プロジェクト向けプロセス機器受注
- 2015年 9月 第一工業製薬 (株) ／四日市新拠点第1期
第1次工事竣工
- 2015年12月 船舶環境規制対応機器 (SOxスクラバ)
1号機納入
- 2016年 2月 サンエイ糖化 (株) ／乳酸菌プラント第2期
建設工事竣工
- 2016年 2月 三菱油清浄機 (セルフジェクター: SJ) 出荷台数
累計100,000台突破
- 2016年 3月 水素ステーション建設累計実績14箇所



SOxスクラバ

三菱油清浄機

I-6. 三菱化工機のご紹介 — 主要施設一覧

【本社】

- 本社
- 本社営業事務所

【支社・支店】

- 大阪支社
- 名古屋支店
- 沖縄支店

【営業所・営業出張所】

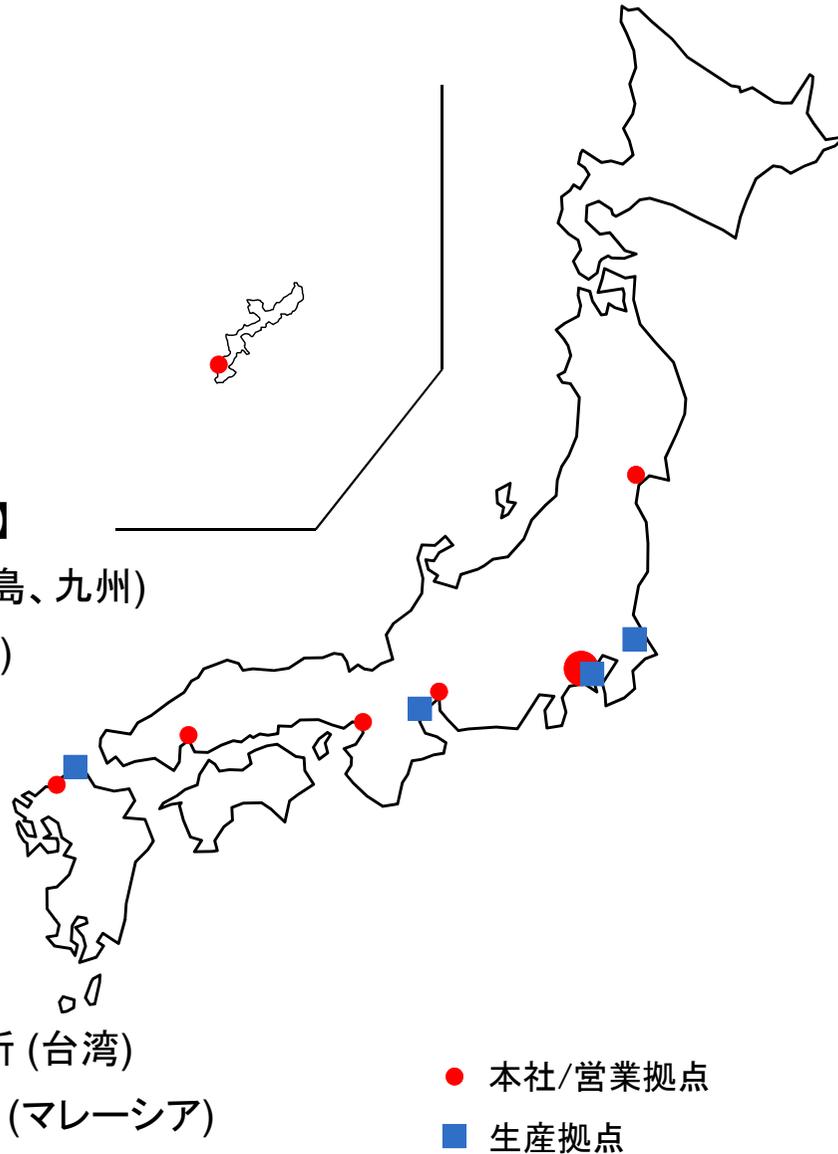
- 営業所 (東北、広島、九州)
- 営業出張所 (横浜)

【工場】

- 川崎製作所
- 四日市工場
- 鹿島工場

【海外事務所】

- 台湾駐在員事務所 (台湾)
- マレーシア営業所 (マレーシア)



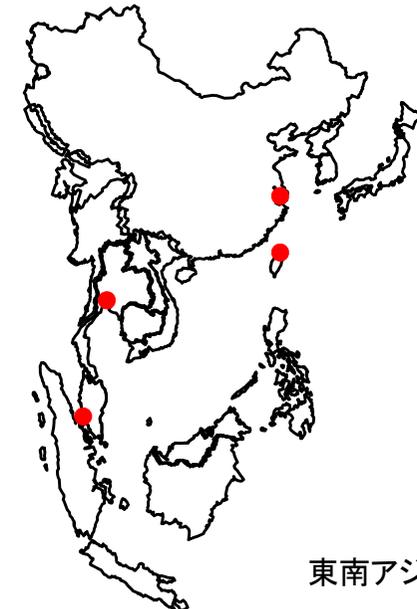
【グループ会社】

(連結子会社)

- 化工機プラント環境エンジ株式会社
- 株式会社菱化製作所
- 化工機商事株式会社
- MKK Asia Co., Ltd. (タイ)

(非連結子会社)

- 菱化貿易 (上海) 有限公司 (中国)
- MKK EUROPE B.V. (オランダ)



東南アジア地区の拠点

中期経営計画 目次

I. 三菱化工機のご紹介

II. 足許の業績の振り返り

III. 企業ビジョン (10年後のあるべき姿)

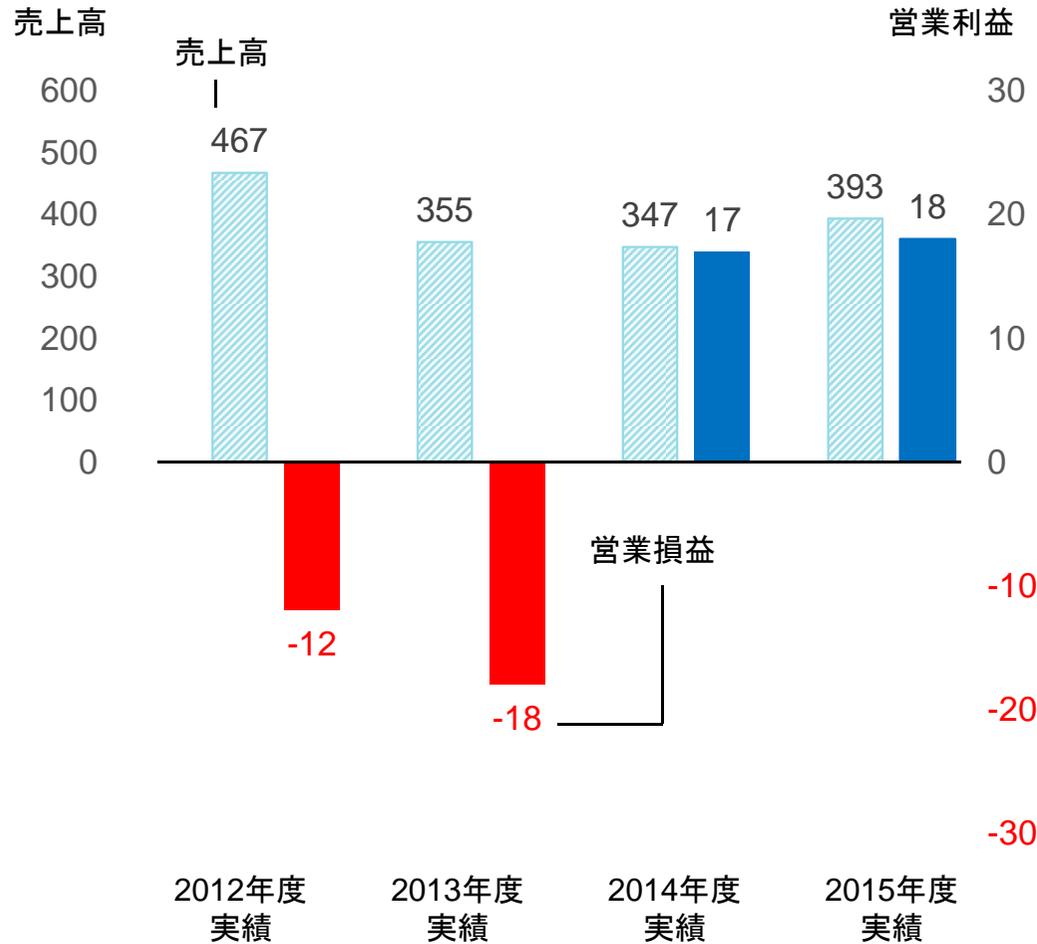
IV. 中期経営計画概要 (2016年度～2018年度)

II-1. 足許の業績の振り返り — 売上/営業利益 (連結)

足許の業績推移

単位: 億円

業績推移コメント



3期ぶりの黒字化達成

【2014年度】

- 伸長分野の水素製造関連製品や基盤製品の三菱油清浄機等で売上増加も、プラント事業にて採算重視・選別受注による絞り込みや大型案件の期ずれが発生しました結果、売上高は前期比減少しました
- 一方で、固定費及び諸経費の削減や工事の損益管理徹底、業務プロセス管理の強化等が寄与し、3期ぶりの黒字化を達成しました

【2015年度】

- 海外のプラントや水素関連事業等における受注の好調により、売上高は前期比増加しました
- 損益面では、売上高の増加等ありましたが水素をはじめとする成長分野への研究開発費等の投資の増加があり、営業利益は若干の増加にとどまりました

中期経営計画 目次

I. 三菱化工機のご紹介

II. 足許の業績の振り返り

III. 企業ビジョン (10年後のあるべき姿)

IV. 中期経営計画概要 (2016年度～2018年度)

III-1. 企業ビジョン (10年後のあるべき姿)

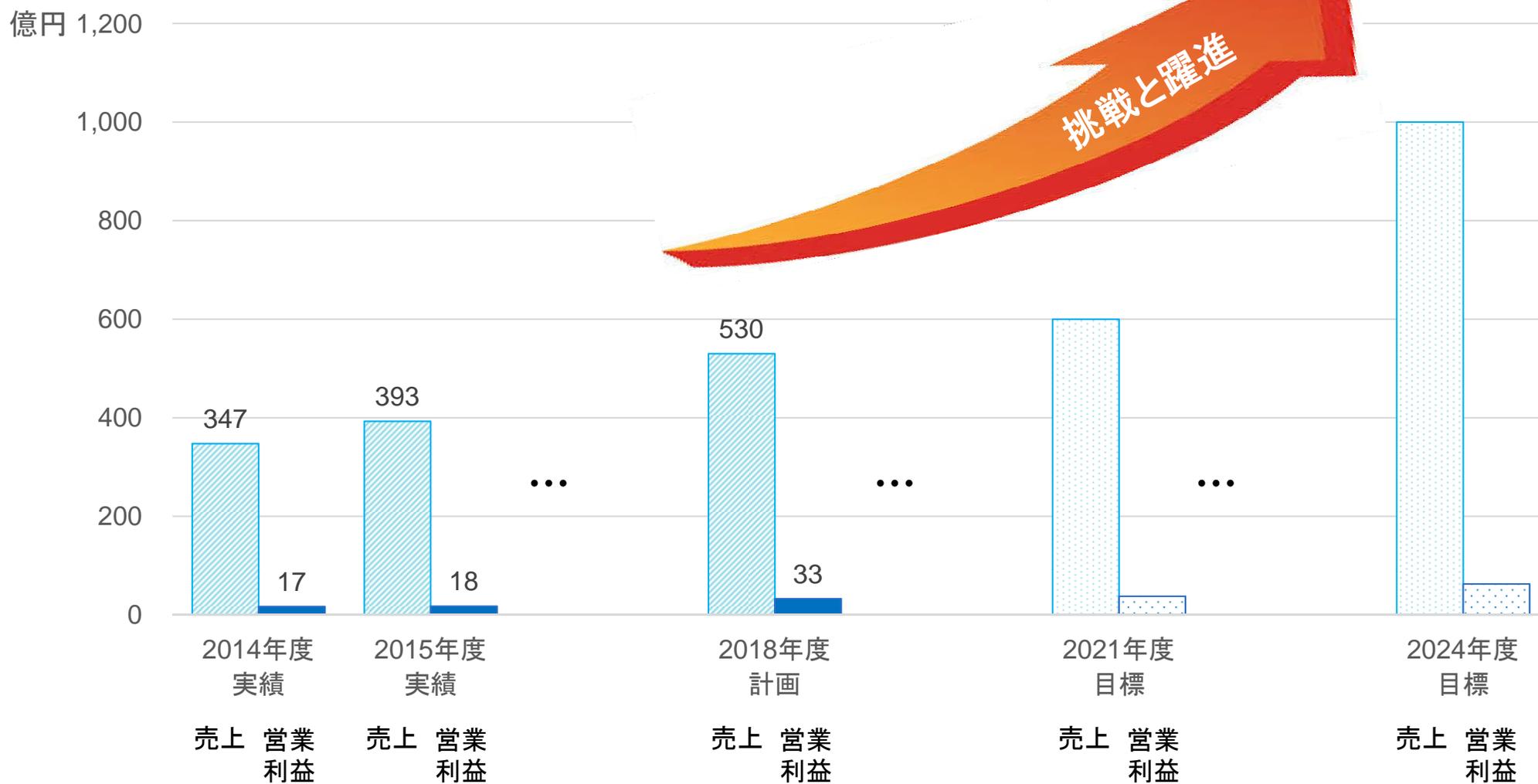
『挑戦と躍進』

三菱化工機グループは、
モノづくりとエンジニアリングで明日を
創造する企業グループを目指します

1. 固体・液体・気体の分離技術とモノづくりで培われた
高品質の製品を社会に提供し、満足と信頼を
得られる企業を目指します
2. 持続可能な循環型社会の構築に向け、新製品・
新技術を提供するリーディングカンパニーとして、
社会に貢献する企業を目指します
3. 企業価値を高め、社会的に存在感のある、
ステークホルダーに安心される企業を目指します

III-2. 企業ビジョン — 数値目標 (連結)

10年後には売上高1,000億円規模を目指します



中期経営計画 目次

I. 三菱化工機のご紹介

II. 足許の業績の振り返り

III. 企業ビジョン (10年後のあるべき姿)

IV. 中期経営計画概要 (2016年度～2018年度)

IV-1. 中期経営計画の骨子

10年後のあるべき姿を達成するための第1ステップ

次世代成長 分野への投資

1. 次世代技術・分野への挑戦と積極投資
2. 海外市場開拓と売上の拡大
3. 成長に向けたアライアンスの推進
4. 機構改革によるエネルギー事業分野の推進

将来への 経営基盤確立

1. 差別化の促進による既存事業の競争力アップと市場開拓
2. グループ組織再編による組織力強化と収益力向上
3. 再構築事業の見直しによる採算性の向上

IV-2. 中期経営計画の骨子 — 次世代成長分野への投資

2事業分野の狙い

エンジニアリング

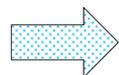
- 水素製造関連技術の拡充・強化
- LNG他エネルギー関連技術、再生可能エネルギー関連技術の強化
- 下水関連技術・コスト競争力の強化
- リソース増強による受注規模拡大
- 海外ビジネスの拡大
- 競争力のある技術の獲得

単体機械

- 船舶環境規制対応機器の基盤技術の強化と製品ラインアップの充実
- ナノ分野、精密ろ過分野へのDyF^{*1}の拡販
- ケミカル・食品・医薬分野への陸上SJ^{*2}の拡販
- 生産・サービス拠点の充実化
- 海外ビジネスの拡大
- 競争力のある技術の獲得

*1: DyF: ダイナフィルター(ディスク型セラミック膜フィルター)

*2: 陸上SJ: 陸上用の自己排出型ディスクセパレーター



達成のため、積極的にアライアンスを活用する

IV-3. 中期経営計画の骨子 — 次世代成長分野への投資

重点開発領域

クリーンエネルギー 関連領域



高性能小型オンサイト水素製造装置
(HyGeia-A)

バイオガス利活用領域



下水バイオガス原料による水素等創エ
ネ技術
(左上:下水消化槽 右下:水素ステーション)

船舶環境規制領域

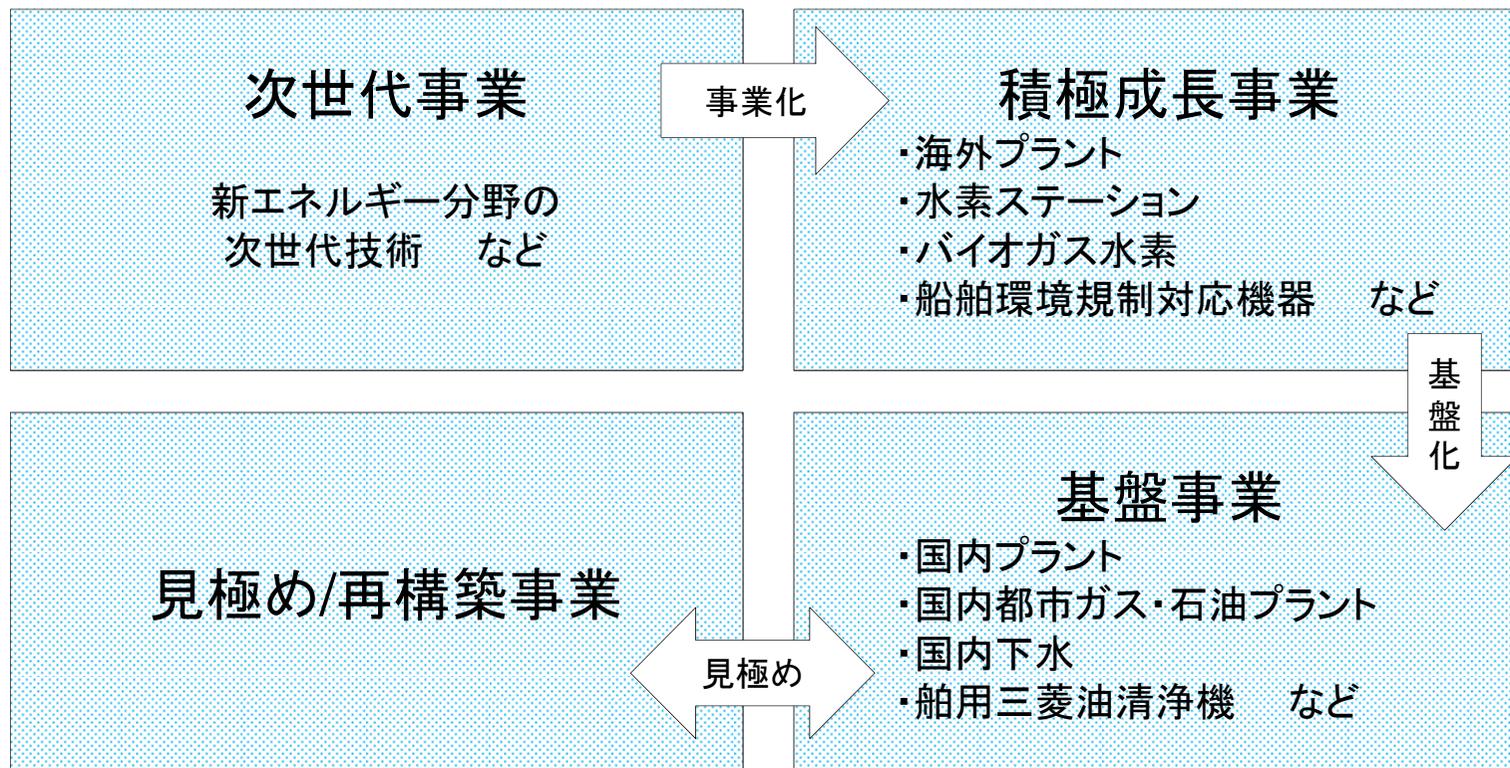


船舶排出ガスからSOxを除去する技術
(三菱ハイブリッドSOxスクラバ)

IV-4. 中期経営計画の骨子 — 将来への経営基盤確立

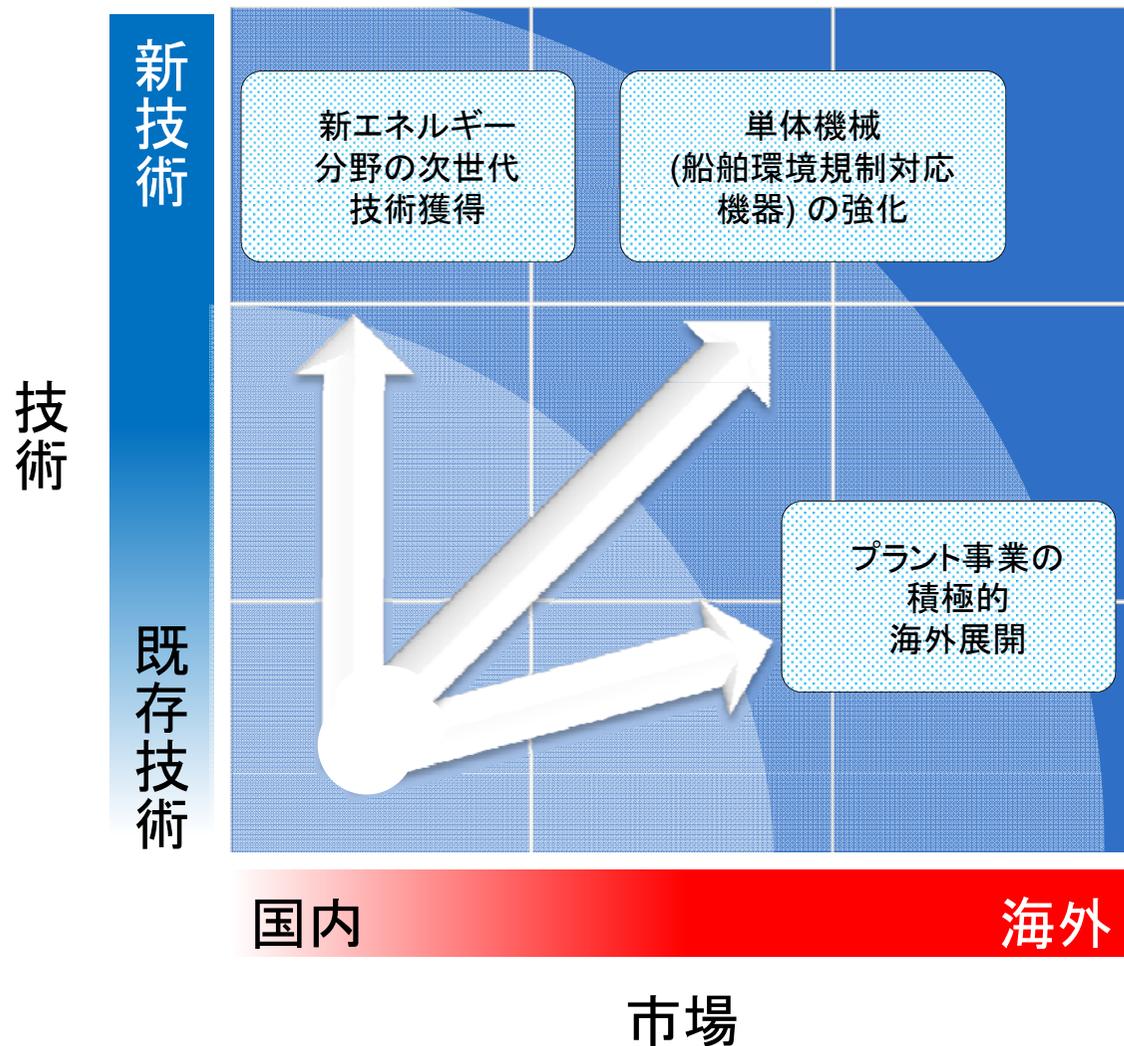
企業ビジョンの目標達成に向けて注力すべき分野を明確にするため、事業を以下の4つに分類し、当社の目指すポートフォリオを構築していきます

各事業の位置づけ定義



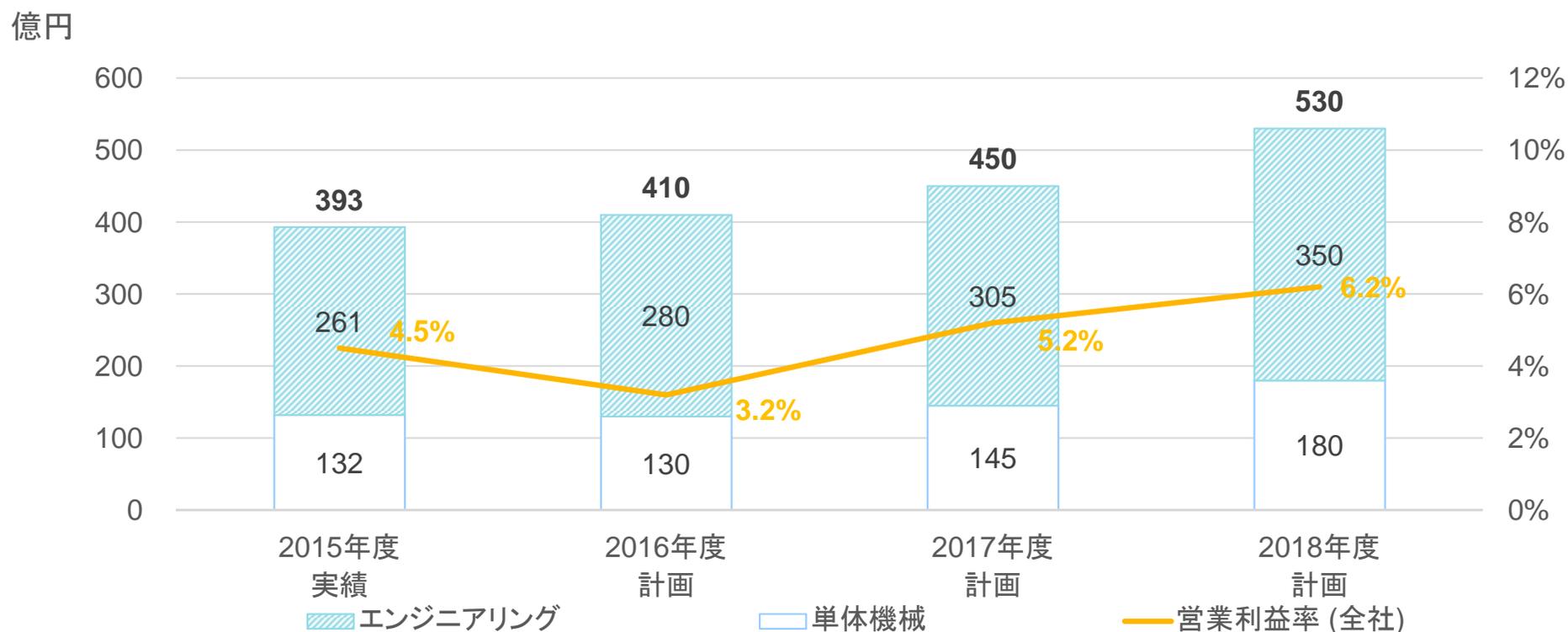
IV-5. 中期経営計画の骨子 — 将来への経営基盤確立

当社の目指すポートフォリオ



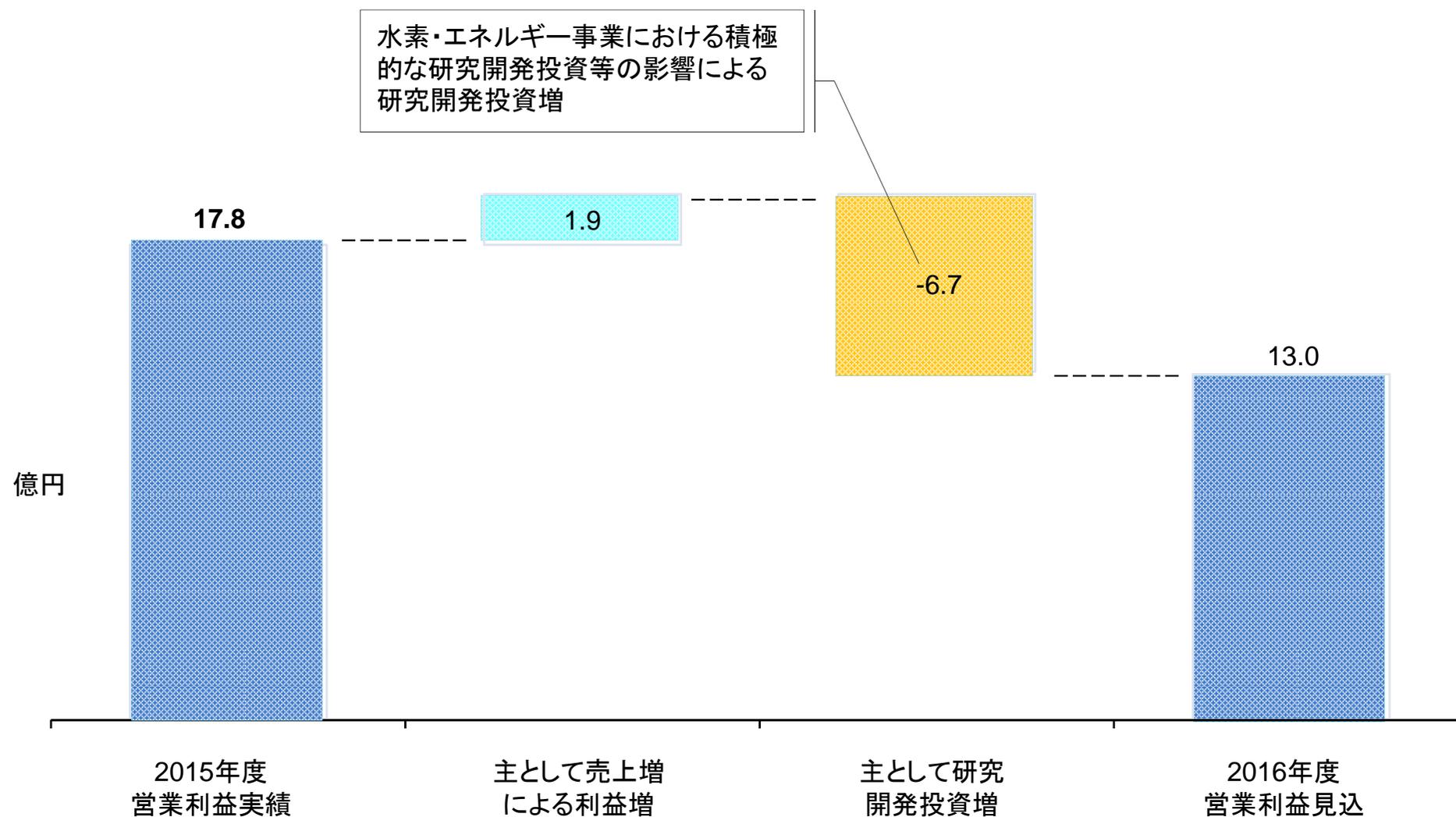
IV-6. 数値計画 — 売上・営業利益計画 (連結)

売上・営業利益計画

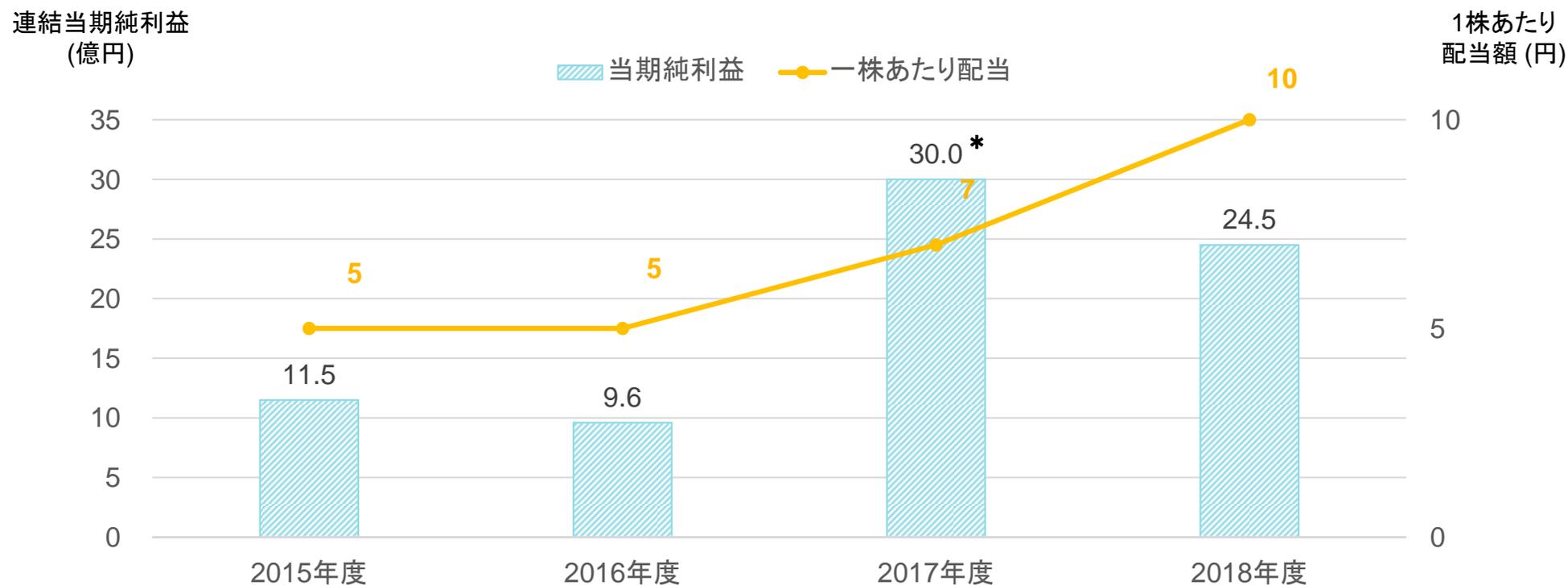


営業利益額	17.8	13.0	23.5	33.0
エンジニアリング	-0.5	-1.5	6.8	12.0
単体機械	18.3	14.5	16.7	21.0

IV-7. 数値計画 — 営業利益増減の内訳 (連結 2015年度～2016年度)



IV-8. 株主還元方針



配当総額	4.0億円	4.0億円	5.5億円	7.9億円
配当性向	34.4%	41.2%	18.4%*	32.3%

成長と基盤整備により利益拡大を図り、株主に対して常に5円以上の配当を目処に、安定した配当の実現を目指す (原則として30%以上の連結配当性向を目指す)

* 2017年度の当期純利益は税効果を見込んでいるため、配当性向は30%を下回っております

本資料における業績見通しは現時点で当社が有する情報により当社が判断したものであり、実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素が影響し予想とは大きく異なる可能性があります。

当社グループは多岐にわたる事業を行っており、その業績は為替市場、原燃料市況や関連産業の技術革新のスピード、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。また将来業績に影響する不確実な要素はこれらに限られません。

 三菱化工機株式会社